

令和元年度 第2回長野市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会 会議概要

開催日時	令和元年7月25日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	第二庁舎10階 会議室201
委員出席者	11名 (欠席委員4名 小林敏枝委員、西澤定男委員、水内秀雄委員、花石多希子委員)
傍聴者	2名
事務局出席者	樋口保健福祉部長(冒頭挨拶)、竹本障害福祉課長 障害福祉課職員3名
公開・非公開	公開
分科会内容(概要)	<p>1 開会 進行：竹本障害福祉課長 ・開会</p> <p>2 あいさつ ・横地会長あいさつ ・樋口部長あいさつ(以降所用あり退室) ・竹本障害福祉課長から出席委員数の確認と会議の成立、公開について報告 ・配布資料の確認(事前に送付した次第、名簿、資料2とアンケート調査票及び当日配布の障害者基本計画最終点検評価報告書)</p> <p>3 議事 (1) 長野市障害者基本計画等の進捗状況及び評価について ・事務局から説明 … 資料1</p> <p>第2次長野市障害者基本計画の策定にあたり、現在の基本計画に掲載されている事業の進捗状況の点検と評価を実施。今年度から新しい計画の骨子案の策定に入ることもあり、今回が策定前の最終評価となる。</p> <p>【質疑応答】(要旨) 委員：1-1-3の前半5か年(H27年度末まで)の評価に「×」がついているのはなぜか？ 事務局：障害者権利擁護センターの設置がされていなかったためである。制度上、そういうスキームになっていなかったということであれば、表記の方法について検討する。 委員：同事業の「今後(令和2年度まで)の方向性(中間見直し時)」も、評価を「×」としているにもかかわらず、「拡充」としているが、適切な表現にしてください。 委員：先ほど事務局から226事業について評価をしたと説明があり、ここに掲載されている16事業は全て継続となっているが、それ以外の事業で廃止済となっているものもあるのか？ 事務局：21事業が廃止済みとなっている。</p>

委員：3ページ目の4-2-23について、前半5か年の評価が◎であるのに対し、後半5か年の評価が○となっているのはどうしてなのか？

事務局：後半5か年については、目標値を達成できていない事業もあるため、評価を○とした。

(2) アンケートの実施について

・事務局から説明 … 資料2

【質疑応答】 (要旨)

委員：アンケートは法律等を知っていただくよい機会でもあると思うので、一般市民の方へのアンケートに「障害者虐待防止法」や「障害者差別解消法」についても設問を作っていたきたい。

委員：外出について、障害者へのアンケート13ページ、障害児へのアンケート10ページに設問が作られているが、過去のアンケートでは、7割強の方が移動手段を自家用車に頼っていると回答されている。

実際、障害児のいるご家庭では、通学にはスクールバス、放課後デイサービス等の通所には、事業所による送り迎えサービスを利用しており、親が送迎をしていないことが多い。しかし、学校を卒業すると送迎サービスがなくなり、途端に移動が困難になる。そうすると、最悪の場合は、親が仕事を辞めて、事業所への送迎をしなければならない事態にも陥ることがある。今回の障害児を対象とするアンケートでは、移動についての設問がなく、これらの課題が掘り起こせないのではないかと。

委員：障害者や障害児へのアンケートには、家族の自家用車による移動手段がなくなった場合に他の移動手段はあるかどうかを尋ねる設問を加えたらどうか。

委員：議題1に戻るが、資料1について、前回平成27年度の間見直し案の検討に参加していた関係で、6-1-25の事業等、当時新規で立ち上げた事業については、今回の評価を知りたいので、資料を出していただきたい。

事務局：次回の専門分科会で、最終評価の総括と共に、該当する事業については、資料を提示する。

委員：先ほどの移動手段の課題について、障害当事者の立場から、自分も今後移動手段が確保できるのかどうか、不安に感じている。

委員：「自家用車での移動がかなわなかった場合はどうしますか？」と設問を作り、回答の選択肢として、「公共交通機関」などの回答と共に「他の移動手段が見つからない。」という回答を設定しておけばいいのではないかと。

委員：市の事業は各課縦割りで実施されているが、各課だけで把握していたのでは、非効率な事業もあることから、市の中で研究会を立ち上げて取り組んでいる事業もあるかと思う。ユニバーサルデザイン事業は、庁内関係課で

取り組んでいるとのことだが、同じように庁内で研究会を立ち上げて取り組んでいる事業についても、次回の専門分科会で最終評価を報告していただきたい。

委員：アンケートの対象者には、精神の手帳は持っていない、自立支援受給者証だけを持っている人や難病の人も含んでいるのか。

事務局：含んでいる。

委員：障害者、障害児アンケートの3ページ目、問5の回答選択肢2について、「統合失調症」を1つ目にし、「うつ病」は「躁うつ病」とした方がよい。また、選択肢3の「選択性緘黙」は記載不要と思われる。

委員：障害者アンケートの11ページ目、問23の「過度にならない」という表現はどこから来ているのか。「適度」なら分かるのだが。

事務局：「障害者の権利に関する条約」にある表記であるため、そのまま設問に掲載している。

委員：障害者、障害児のアンケートの中の差別に関する設問については、差別をどのような場面でされたかということ以上に、内容が重要であるため、内容を問う設問を設けていただきたい。

委員：今回は、障害児の保護者と18歳以上の障害者に回答を求めるアンケートとなっているが、18歳以上の障害者を持つ親にもアンケートをしてもらいたい。

事務局：今回はアンケートの対象とはしていないが、親の会に対して実施するヒヤリングで、お話しを聞かせていただく。

委員：一般市民に対するアンケートにルビはふらなくてよいのか。

事務局：ルビはふらずに出させていただきたい。

委員：障害者、障害児いずれのアンケートにもある、「合理的配慮」に関する設問の説明として、「障害者の権利に関する条約」の文章を引用しているが、条約よりも「障害者差別解消法」を引用していただきたい。

事務局：変更する。

委員：障害者アンケートの5ページ目、問12について、設問として意味があるのかというご意見もあったが、回答選択肢の1～8の選択割合が高いと、一般市民の方の関心が高く、9～11の選択割合が高いと、一般の方が意識のないところで差別をしていると見ることが出来る、障害者の差別への理解が分かる、大切な設問だと思う。

委員：障害者アンケート12ページ目、問29を例にとると、障害を持つ方やその親御さんは、どこに相談していいか悩む方が多い。そういった課題を克服するためにも、アンケートの集約結果を活かし、計画にしっかりと落とし込

んで、充実したものにしていきたい。

事務局：アンケートをした結果、相談先についての課題が浮かびあがってくれば、それは相談場所についてのPRが不足しているということで、事業に反映させなければならないということになる。アンケートの結果をしっかりと踏まえていきたい。

委員：アンケートに掲載されていないから、事業が進んでいかないということではないと思うが、身体障害に比べ、知的や精神の障害は、外見からは分かりにくく、このアンケートも少し身体障害に傾倒しているのではと感じる。アンケートの「障害者」の記載にも、後に「身体、知的、精神」と入れてもらった方がよいのではないか。

委員：障害者アンケート7ページ目のコの就労定着支援についての説明には、「就労後」と頭に記載していただきたい。また、15ページ目問39についても、同じく就労定着支援についての設問かと思うが、「就労定着支援」という言葉を表記した方がよい。

議長：アンケートについては、様々なご意見をいただいたが、修正については、事務局に一任いただきたい。これにて本日、審議していただく案件は、すべて終了した。議事進行の協力に感謝する。進行を事務局へお返しする。

4 その他

進行：竹本障害福祉課長

事務局：次回は11月8日（金）午後を開催を予定している。この日は、分科会前に、長野市社会福祉審議会本会が開催され、障害者基本計画等の策定について、諮問させていただく予定である。また、開催時期の近くに案内する。

5 閉会